

最終報告(2011年8月19日)

内閣府・地域社会雇用創造事業

地域密着型インターンシップ

特定非営利法人 素材広場

第8期インターン生 ニックネーム なかじん

7月23日～8月21日

【研修の目的】

- ・地域活性化の1つの例として、素材広場の活動を理解。
- ・東日本大震災に伴う風評被害が農業・観光に与える影響を把握。
- ・私が研修後に地域活性化を進めるために具体的にできることを見つける。

【研修・作業内容】

1. 伊藤忠食品物産展(場所：大阪／7月26、27日)

<内容>

- ・伊藤忠食品株式会社が主催の物産展に東北支援ブースとしての“買おう、東北”というコーナーの一角に素材広場として出展。(買おう、東北のコーナーには約9つのブース)
- ・ブースの規模は企業の規模によって異なり、テレビや厨房を備えたブースも。
- ・素材広場としては会津地鶏の生ハムを出展し、“地鶏”を“生ハム”にしているという希少性をアピール。

<出展商品>

“会津地鶏みしまや”と“素材広場”の共同開発した会津地鶏の生ハム

<気づき>

- ・伊藤忠食品が主催する物産展であり伊藤忠食品の取引の場という雰囲気が強く、あまり会津地鶏自体をPRできなかった。(生ハムに興味を持つ人はいたが。)



▲物産展入り口



▲素材広場ブース

2. 山際シェフの物販お手伝い（場所：郡山／7月31日）

＜販売商品＞

- ・キュウリの漬物（浅漬け、マスタード味、わさび味）、夏野菜カレー、スパゲッティ

＜内容＞

- ・専門学校で行われたファッションショー会場の一角で山際シェフの料理を販売

＜気づき＞

- ・ 前日の大雨で電車が運転見合わせをしていたため、例年によりお客が少なかった。（特に学外の人が少ない）
- ・ キュウリの一本付け（一本 80 円）をお手ごろ感覚で買われる方が多かった。

3. モニターツアーの資料・招待状作成、取材

＜観光モニターツアーの概要＞

目的：3月11日の地震や原子力発電事故に伴った会津の風評被害の現状を参加者に理解し会津の食材が安全ということを宣伝してもらう

方法：9月17日、18日に東京を発着とするマイクロバスで東京のメディアを会津に招待し、農家を視察、会津の食材を用いた料理をビュッフェ形式で提供。その際に、食材提供をしてくださった農家、酪農家の方の作業風景をまとめた30秒程のビデオ映像を8本（予定、現在は4ヶ所を取材済）放映。

① 観光モニターツアーで放映するCMの資料作成、取材(7月28日～8月6日)

(1)会津中央乳業(場所：坂下町／8月1日取材)

- ・ 社長が出迎えてくださり、事務所で会津中央乳業の生い立ちやマスコットキャラクターの由来、商品説明。
- ・ 営業の二瓶さんが工場内、製品製造方法、乳酸菌検査、商品説明(会津の牛乳、べこの乳、もうひとしぼり、会津の雪ヨーグルト)等を案内



▲昔の牛乳瓶入れ

(2)片桐さん（8月3日取材）

- ・ 片桐さんのお宅で稲作りの方法、お米コンテスト等についての説明

⇒ 最低限の農薬

「自分が食べるものは消費者も食べる。消費者の顔は見えなくても、安心して食べてもらえるものをつくりたい」

・畑の野菜紹介、大葉摘み、田んぼで草刈作業を撮影

栽培野菜：きゅうり、かぼちゃ、トマト、じゃがいも、里芋、長いも、青じそ、なす、ラズベリー、スイカ、メロンなど

→野菜は自家用のみで出荷はしていない（規模的に出荷可能）



▲田んぼの草を刈る片桐さん

(3) 築田さん（場所：神指町高久／8月4日取材）

・お母さん、お父さん、おばあちゃんの3人で野菜・お米を栽培（お母さんが野菜の販売準備・販売、お父さんが桃の出荷準備、野菜配達、おばあちゃんがお母さんの補助・野菜の収穫や草抜き）

・栽培野菜（キュウリ、茄子、トマト、ピーマン、かぼちゃ、ジャガイモ、玉ネギ、とうもろこし、枝豆、里芋、山芋、さつまいも、ニラ、米、等）

・低農薬有機栽培

→土を健康にしないと野菜も健康にならない化学肥料で畑がこわれても、入れ替えられない

・昨年大雪、3月の震災、猛暑が続く雨不足

→不安要素が多く、野菜が栽培できるのか心配

⇒研修では短期的にしか関わることはできないが、真摯に農作業に取り組む築田さんの力になりたい。お母さんの負担を減らすことが出来るよう動く。



▲お話をしてくれている梁田さん

▲トラックで畑に向かう築田さん

(4)会津地鳥みしまや(場所：大沼郡美島町／8月8日取材)

<内容>

- ・養鶏場、加工所撮影
- ・社長のお話を聞く

<気づき>

- ・ハウスの中で孵化1カ月後ごとに4つのハウスに分けて飼育している。
→鶏同士が傷を付けあわないように、雛の時にくちばしをけずる。
- ・会津地鳥は2回掛け合わせてあり、会津地鳥同士の雛は会津地鳥と認定されない。

② 観光モニターに招待状を送付する企業の資料作成、招待状作成

<内容>

- ・招待状送付数：192通(8月17日送付)
- ・封筒の裏に手書きのメッセージを記入

メッセージ内容：この度、会津の風評被害に対する観光モニターツアーを会津で行います。お手数ですが、適材の方がいらっしゃいましたらお渡しください。会津は風評被害に負けず、復興に向けて闘っています。この現状を一人でも多くの方に理解して頂くため、お手数ですが会津にお越し頂ければと思います。

<気づき>

- ・200枚近くの封筒に手書きでメッセージを記入することの大変さ
→手伝ってもらえることは他の人にも協力してもらう(作業の効率化)
- ・送付先の差し込み印刷での苦戦（1日半はパソコンと向かい合っていた）
→パソコン技術の向上

③ モニターツアー1日目の夜のbuffetについての打ち合わせ

<内容>

- ・山際食材工房山際シェフの会津の食材を使った創作料理と会津の漆器を組み合わせたbuffetの提案

<気づき>

- ・漆器職人さんの作った作品を直接見て興味を深めた。
- ・何気なく職人さんが使っている道具を器として利用する発想のおもしろさ



▲職人さんが漆の色味を見るために使っている台と料理

4. 柳津にあるホテルの大雨被害の復興補助(8月2日)

<内容>

・7月30日に新潟・福島の大雨災害により、柳津の“花ホテル 滝のや”が1m程浸水したので、泥を被った食器類洗いの補助。

<気づき>

・大雨被害のすさまじさ（川の氾濫による橋の決壊・田んぼへの川水の氾濫、集落への水災害）

・コミュニティーの復興に向けた団結力・助け合い

5. ニイダヤ社長賀澤さんのお話（場所：いわき市四倉港／8月12日）

<内容>

いわき市で被災者支援をしている魚加工業者ニイダヤ社長の震災時・震災後のお話を聞く。

<気づき>

・沿岸部で津波の被害を受けた集落を実際にみて、テレビで放映されている状況と同じものが広がっていることに複雑な思い。

・賀澤さんは自身も被災者でありながら、旅館での被災者受入など他の被災者支援を行っており、その行動力精神に感動した。

6. 東山温泉観光協会盆踊りお手伝い（8月10日、13～16日）

<内容>

8月10日：13日～16日の盆踊りの打ち合わせ、お湯掛祭参加

8月13日～16日：東山温泉盆踊りの運営補助

<気づき>

・例年に比較するとお客は少ない。

・盆踊りという文化があることへの興味の深まり。



▲大熊町と東山温泉盆踊り

7. 梁田さんの農作業のお手伝い（8月5日～7日、9日、10日、13～18日）

①農作業

<内容>

- （1） 枝豆収穫・袋詰め（8月5日、7日、9日、10日、13日、18日）
- （2） 薩摩菊の畑の草刈り・袋詰め準備（8月5日、10日）
- （3） ももの収穫箱作り、箱詰め補助（8月5日、13日）
- （4） ジャガイモの袋詰め（8月7日）
- （5） 人参の収穫・洗浄（8月9日）
- （6） ナスの袋詰め（8月13日）
- （7） キュウリの剪定（8月14日～16日）
- （8） 白菜・スティックブロッコリー・オータムポエムの種まき（8月16日、17日）
- （9） ニラの刈り取り（8月17日）
- （10） ピーマン収穫（8月18日）



▲桃の箱詰めをするお父さん



▲収穫した枝豆とさつま菊



▲剪定委したキュウリ



▲収穫した高久の桃



▲梁田さん一家

②土曜の朝市（場所：八角町のビニールハウス／8月6日8時～8時15分）

<内容>

- ・ビニールハウスでJ Aあいづ女性部若松支部での朝市。
- ・約30の農家が野菜や果物や加工品を販売。

<気づき>

- ・朝市開始10分前には20人ほどの行列が出来て、開始15分後にはお客はひいていた。
- ・1週間分の野菜を買っていかれる方も多く、リピーターが多い。

③軽トラ市（場所：中央通り旧プロースト／8月6日16時～20時）

<内容>

- ・軽トラに積んだ会津若松市産の野菜・くだもの・お花、米や加工品を生産者が直接販売。
- ・地元農産物を使った美味しいメニューの販売（河東町のそば、会津産塩シュークリーム、会津地鶏焼き鳥・唐揚げ、焼きそば、カルビ焼き、かき氷、焼きトウモロコシ）
- ・民謡・盆踊り（会津）、ヒップホップダンス（会津）、アフリカンダンス（会津）、パフォーマンス（横須賀市）などのステージショー

<気づき>

- ・ステージを軽トラが覆うようにセッティングされており、多くの人でにぎわっていた。
- ・野菜を買うことを第一の目的で来ている人が少なく、軽トラ市としての売れ行きは朝市に比べると悪かった。
- ・夏野菜を売っている軽トラが多く、他との差別化があまり出来ていなかった。（ポップや値段など）



▲軽トラ市会場入り口



▲軽トラ市の風景

＜梁田家での農作業全体を通じた気づき＞

- ・ 周囲の施設との連携・人と人の繋がり の深さ
- ・ 1次産業の重要性（食の安全性、自給率の低下）
- ・ 1次産業従事者の高齢化・後継者問題
- ※なぜ1次産業を継ぐ人が少ないのか？
 - 経済的理由、重労働、少子化、天候の不安定さ、日本食離れ
- ・ 1次産業を維持・活性化するための6次化産業の役割
- ・ 農作業の肉体的辛さ

【研修の目的の達成状況】

- ・ 素材広場で研修をするうちに、徐々に原子力発電所事故による農業・観光業が受けている風評被害の現状（農業、観光）を把握できた。
 - ・ 旅館と農業を繋ぐ素材広場の役割を物販、被災地・被災者支援（柳津の旅館、ニイダヤ）、を通して把握できた。ただ、1か月という期間では物足りなさを感じるくらい、素材広場の活動範囲は広い。
 - ・ 農業への関心が強まった。
- 地元広島に帰ってできることの模索（広島大学が農家と連携して行うボランティア参加、地元の特産物の調査など）

【今後の課題】

- ・ 情報をきちんと整理してから行動すること。
 - 行動の活性化に繋がる、ミスが少なくなる。
- ・ 忘れものには注意をすること。
 - 周囲の人に多大な迷惑をかける。

【研修全体を通じた気づき】

・会津に来て、観光地が多く想像以上に栄えていると思った。また、会津ならではの様々な文化（食、お祭り、民芸品、建築物、博物館など）も多く、それをアピールするもの（観光バス）もある。

⇒交通手段として電車・バスの便の少なさ、風評被害、会津若松市の高齢化（後継者不足）

・テレビなどのメディアの情報でしか知らなかった東北大震災・風評被害の影響を直接知ることができたのは、私にとって大きな刺激となった。特に、食に関心があったので、農家での農作業を 2 週間近く体験しながら農業の産業としての将来性・後継者問題・食の安全性について考えるいい機会となった。